

浄土真宗本願寺派勤行 経文・意訳・作法説明付

ぶつせつあみ だきようねんぶつわさん
仏説阿弥陀経念仏和讃入り

○は調声(リーダー)が読む。●より一緒に読む。

合掌・礼拝・経本を頂く キン二打

三奉請

ぶじようみだによらいにうどうじよう さんげらく

○奉請 阿弥陀如来入道場 ●散華樂

あみだによらい さんげらく

阿弥陀如来、法要の準備が整いました。花を降らしお迎えします。

ぶじようしやくかによらいにうどうじよう さんげらく

○奉請 釈迦如来入道場 ●散華樂

しやくかによらい さんげらく

釈迦如来、法要の準備が整いました。花を降らしお迎えします。

ぶじようじつぼうによらいにうどうじよう さんげらく

○奉請 十方如来入道場 ●散華樂

ほとけがた さんげらく

全ての仏方、法要の準備が整いました。花を降らしお迎えします。

キン一打 作相 キン二打 表白 キン一打

ぶつせつあみだきよう
○ 仏説阿弥陀經

ようしんさんぞうほうしくまらしゅうぶしよくやく
姚秦三藏法師鳩摩羅什奉詔譯

五世紀初め姚秦の時代に鳩摩羅什三藏法師が訳す

によげもん いちじぶつぎい しやえこく ぎじゆきつごどくおん よだいびくしゆう せんにひやくごしゆうにんく
● 如是我聞・一時仏在・舍衛國・祇樹給孤獨園・与大比丘衆・千二百五十人俱・

私はこのように聞きました。ある時、お釈迦様が舍衛國の祇園精舎においでになり、一二五〇人のすぐれた弟子たちとご一緒でした。

かいぜだいあらかん しゆしよちしき ちようろうしやりほつ まかもつけんれん まかかしよう まかかせんねん
皆是大阿羅漢・衆所知識・長老舍利弗・摩訶目犍連・摩訶迦葉・摩訶迦旃延・

皆が偉大で、世に知られた方々でした。長老の舍利弗をはじめ、摩訶目犍連・摩訶迦葉・摩訶迦旃延・

まかくちら りはた しゆうりはんだが なんだ あなんだ らごら きようほんはたい びんずるはらだ
摩訶俱犍羅・離婆多・周利槃陀伽・難陀・阿難陀・羅睺羅・驕梵波提・賓頭盧頗羅墮・

まかくちら りはた しゆうりはんだが なんだ あなんだ らごら きようほんはたい びんずるはらだ
摩訶俱犍羅・離婆多・周利槃陀伽・難陀・阿難陀・羅睺羅・驕梵波提・賓頭盧頗羅墮・

かるだい まかこうひんな はくら あぬるだ によせとう しよだいでし ひようしよぼさつ まかさつ
迦留陀夷・摩訶劫賓那・薄拘羅・阿菟樓駄・如是等・諸大弟子・并諸菩薩摩訶薩・

かるだい まかこうひんな はくら あぬるだ によせとう しよだいでし ひようしよぼさつ まかさつ
迦留陀夷・摩訶劫賓那・薄拘羅・阿菟樓駄などのすぐれた弟子達です。また、菩薩方もおいでになり、

もんじゆしりほうおうじ あいつたぼさつ けんだかだいぼさつ じようしようじんぼさつ よによせとう
文殊師利法王子・阿逸多菩薩・乾陀訶提菩薩・常精進菩薩・与如是等・

もんじゅぼさつ　みろくぼさつ　けんだかだいぼさつ　じょうしようじんぼさつ
文殊菩薩・弥勒菩薩・乾陀訶提菩薩・常精進菩薩などの

しよだいぼさつ　ぎゆうしやくだいかんいんとう　むりようしよてん　だいしゆく
諸大菩薩・及釈提桓因等・無量諸天・大衆俱・

多くの菩薩方や、帝釈天などの天人たちも大勢ご一緒でした。

にじぶつごう　ちようろうしやりほつ　じゆうぜさいほう　かじゆうまんのくぶつど　うせかい　みようわつごくらく　ごとうぶつ
爾時佛告・長老舍利弗・従是西方・過十萬億佛土・有世界・名曰極樂・其土有佛・

その時、お釈迦様が長老の舍利弗にお話をされました。「ここから西の方角へ、十方億の仏の国々を超え
たところに、また国があり、その名を極樂という。その国の仏の名を

ごうあみだ　こんげんざいせつほう　しやりほつ　ひとがこ　みよういごくらく　ごこくしゆくじよう
號阿彌陀・今現在說法・舍利弗・彼土何故・名爲極樂・其國衆生・

阿弥陀という。今現在も教えを説かれています。舍利弗よ、彼の国を何故極樂というのだ。その国の人々
は、

むうしゆく　たんじゆしよらく　こみようごくらく　うしやりほつ　ごくらつこくど　しちじゆうらんじゆん
無有衆苦・但受諸樂・故名極樂・又舍利弗・極樂国土・七重欄楯・

いかなる苦しきもなく、まことの楽しみのみがある。だから極樂というのだ。また舍利弗よ、極樂世界は
七重の欄干に囲われ、

七重羅網・七重行樹・皆是四寶・周匝圍繞・是故彼國・名曰極樂・

七重の宝珠でできた網で覆われ、七重の並木に廻らされている。それらはみな宝石でできており、あらゆるところをくまなく巡り廻っている。だから極樂というのだ。

又舍利弗・極樂国土・有七寶池・八功德水・充滿其中・池底純以・

また舍利弗よ、極樂には七つの宝で飾られた池があり、八種の功德の水で満たされている。池の底には、

金沙布地・四辺階道・金銀瑠璃・玻瓈合成・上有樓閣・亦以金銀

金の砂が一面に敷かれ、四方は階段状になっており、金・銀・瑠璃・玻瓈でできている。ほとりの上には樓閣があり、金・銀・

瑠璃・玻瓈碑礫・赤珠碼碯・而嚴飾之・池中蓮華・大如車輪・

瑠璃・玻瓈・碑礫・赤珠・碼碯で飾られている。池には車輪のように大きな蓮の花が咲いており、

青色青光・黄色黄光・赤色赤光・白色白光・微妙香潔・

青の花は青く光り、黄色の花は黄色に光り、赤の花は赤色に光り、白の花は白く光り、どれも清らかないい香りがする。

舍利弗・極樂国土・成就如是・功德莊嚴・又舍利弗・彼佉国土・

舍利弗よ、極樂淨土はこのようにできている。また舍利弗よ、極樂淨土はまた、

常作天樂・黄金爲地・晝夜六時・而兩曼陀羅華・其國衆生・常以清旦・

素晴らしい音楽が流れている。大地は黄金ででき、一日中、花が舞っている。その国の人々は、毎朝、器に

各以衣祴・盛衆妙華・供養他方・十萬億佛・即以食時・還到本國・

花を盛り、他の国の十萬億の仏方を供養する。お昼までには戻り、食事をした後、静かに歩いている。

飯食經行・舍利弗・極樂國土・成就如是・功德莊嚴・復次舍利弗・

舍利弗よ、極樂國土はこのようにできている。また舍利弗よ、

彼國常有種種奇妙・雜色之鳥・白鵠孔雀・鸚鵡舍利・迦陵頻伽・共命之鳥・

彼の国には色とりどりの不思議な鳥がいる。白鳥・孔雀・オウム・シヤリ・カラピンカ・共命鳥である。

是諸衆鳥・晝夜六時・出和雅音・其音演暢・五根五力・七菩提分・八聖道分・

これらの鳥は法要の時間になると美しく鳴く。その鳴き声は、五根・五力・七菩提分・八聖道分などの

によぜどうほう ごとしゆじょう もんぜおんに かいしつねんぶつ ねんぼうねんそう しゃりほつ によもつしちじょう
如是等法・其土衆生・聞是音已・皆悉念佛・念法念僧・舍利弗・汝勿謂此鳥・

教之を説いている。その国の人々は、鳥たちの声を聞いて、みな仏を尊び、法を尊び、僧を尊ぶ。舍利弗よ、これらの鳥は、

じつぜざいほうしよしじょう しよいしゃが ひぶつこくと むさんまくしゆ しゃりほつ ごぶつこくと
實是罪報所生・所以者何・彼佛国土・無三惡趣・舍利弗・其佛国土・

罪の報いで鳥として生まれているのではない。極樂浄土には、地獄・餓鬼・畜生の者はいないのだ。舍利弗よ、極樂浄土には

しやうむさんまくどうしみじょう がきやううじつ ぜしよしゆちじょう かいぜあみだぶつ よくりやうほんおんせんる へんげしよき
尚無三惡道之名・何況有實・是諸衆鳥・皆是阿彌陀佛・欲令法音宣流・變化所作・

それらの名前すらない。だからいるわけもないのだ。これらの鳥は、阿彌陀仏が法を届けようと變化なされた姿なのだ。

しゃりほつ ひぶつこくと みふうすいどう しよほうこうじゆ きゆうほうらもう すいみみじょうおん
舍利弗・彼佛国土・微風吹動・諸宝行樹・及宝羅網・出微妙音・

舍利弗よ、極樂浄土はなんとも心地いい風が吹き、宝の並木や宝の網から、心地よい音がでる。

ひによひやくせんじゆがく どうじくき もんぜおんしゃ かいじねんじやう ねんぶつねんぼう
譬如百千種樂・同時俱作・聞是音者・皆自然生・念佛念法・

○恒沙塵数の如來は

数えきれない仏様方は

●万行の少善きらひつ

自分の力で修行をするのではなく

名号不思議の信心を

阿弥陀仏が弱きものの為に与えられた南無阿弥陀仏を

ひとしくひとへにすすめしむ

いただくことを勧めておいでです。

キン一打

○舍利弗・●於汝意云何・彼佛何故・號阿彌陀・舍利弗・彼佛光明無量・

舍利弗よ、その国の仏の名を何故阿弥陀というのだろうか。舍利弗よ、阿弥陀仏の慈悲の光はどこまでもはてしなく、

照十方国・無所障礙・是故號阿彌陀・又舍利弗・彼佛壽命・及其人民・

すべての国々を照らして、遮るものがない。だから阿弥陀というのだ。また舍利弗よ、阿弥陀仏や浄土の人々の寿命も限りがない。

無量無辺・阿僧祇劫・故名阿彌陀・舍利弗・阿彌陀佛・成佛已來・於今十劫・

だから阿弥陀あみだというのだ。舍利弗しゃりほつよ、阿弥陀仏あみだぶつは仏ぶつに成られてから、十劫じゅうこつというはるかに長い月日が経つている。

うしゃりほつ ひぶつうむりようむへん しようもんでし かいあらかん ひぜさんじゆ ししよのうち
又舍利弗・彼佛有無量無辺・声聞弟子・皆阿羅漢・非是算数・之所能知・

また舍利弗しゃりほつよ、阿弥陀仏あみだぶつのもとには数えきれない教えを聞く弟子たちがいて、皆阿羅漢あらかんというさとりを得ている。

しよぼさつしゆ やくぶによぜ しゃりほつ ひぶつこくど じようじゆによぜ くとくしようこん
諸菩薩衆・亦復如是・舍利弗・彼佛国土・成就如是・功德莊嚴・

菩薩ぼさつたちも同じで、数えきることができない。舍利弗しゃりほつよ、阿弥陀仏あみだぶつの国は、このように嚴かなのだ。

うしゃりほつ ごくらくこくど しゆじようしようじや かいぜあひばつち ごちゆうたう いっしようふしよ
又舍利弗・極樂国土・衆生 生者・皆是阿鞞跋致・其中多有・一生補處・

また舍利弗しゃりほつよ、極樂国土ごくらくこくに生まれた人々は皆仏ぶつに成ることができる。その中には、迷いの世に還り、迷う人をすくおうとされる方がいる。

ごしゆじんた ひぜさんじゆ しよのうちし たんかいむりようむへん あそうぎこうせつ しゃりほつ
其数甚多・非是算数・所能知之・但可以無量無辺・阿僧祇劫説・舍利弗・

その数は計り知れない。舍利弗しゃりほつよ、

しゆじようもんしゃ おうとうほつがん がんしようひこく しよいしやが とくよによぜ しよじようぜんにん
衆生聞者・應當發願・願生彼國・所以者何・得與如是・諸上善人・

これを聞いた人々は、極樂浄土ごくらくじようどに生まれたいと願うがよい。なぜかと言えば、極樂ごくらくの人々と

くえいつしよ しゃりほつ ふかいしようぜんこん ふくとくいんねん とくしようひこく しゃりほつ
俱會一處・舍利弗・不可以少善根・福德因縁・得生彼国・舍利弗・

同じところで会えるからだ。舍利弗よ、その国に生まれるには、自分で積み上げる善では到底無理である。舍利弗よ、

にやくうぜんなんし ぜんによん もんせつあみだぶつ しゅうじみようこう にかくいちにち にかくにち
若有善男子・善女人・聞説阿彌陀佛・執持名號・若一日・若二日・

念仏の教えを聞く人々は、阿彌陀仏が私の為に仏となられ、功徳を南無阿彌陀仏にこめられ、その念仏は仏の喚び声であつたと、

若三日・若四日・若五日・若六日・若七日・一心不乱・

日にちの長さに限らず、こころから戴くならば、

ごにりんみようじゅうじ あみだぶつ よしよしようじゆ げんざいごぜん ぜにんじゅうじ しんぶてんどう
其人臨命終時・阿彌陀佛・與諸聖衆・現在其前・是人終時・心不顛倒・

その人の臨終において、阿彌陀仏が多くの聖者と共に現れてくださる。その人がいよいよ命が尽きるとき、心穏やかに

せくとくおうじよう あみだぶつ ごくらつこくど しゃりほつ がけんぜり こせつしごん
即得往生・阿彌陀佛・極樂国土・舍利弗・我見是利・故説此言・

阿彌陀仏の極樂浄土に生まれることができる。舍利弗よ、私はこれらの利益があるから説いているのだ。

にやくうしゅうじよう もんせつしゃ おうとうほつがん しようひこくど しゃりほつ によがこんじゃ
若有衆生・聞是説者・應當發願・生彼国土・舍利弗・如我今者・

もし人々の中で、この教えを聞くものがあるならば、極楽浄土ごくらくじょうどに生まれたいと願うがよい。舍利弗しゃりほつよ、私わがが、

さんだんあみだぶつ ぶかしぎくどく とうぼうやくう あしゆくびぶつ しゅみそうぶつ だいしゅみぶつ
讚歎阿彌陀佛・不可思議功德・東方亦有・阿閼鞞佛・須弥相佛・大須弥佛・

あみだぶつ ぶかしぎくどく
阿彌陀仏の不可思議な功德を褒め称えているように、東方にも、阿閼鞞佛・須弥相佛・大須弥佛・

しゅみこうぶつ みようおんぶつ によぜとう ごうがしゃしゅしよぶつ かくおごこく
須弥光佛・妙音佛・如是等・恒河沙数諸佛・各於其国・

しゅみこうぶつ みようおんぶつ
須弥光佛・妙音佛などの無数の仏がそれぞれの国で、

すいこうじようぜつせう へんぶさんぜん だいせんせかい せつじようじつごん によとうしゅじよう
出廣長舌相・徧覆三千大千世界・說誠實言・汝等衆生・

まことの舌を持って、あらゆる世界を覆い、真実であることを説かれる。へそなた達は、

とうしんせしようさん ぶかしぎくどく いっさいしよぶつ しよごねんぎよう しゃりほつ なんぼうせかい
當信是稱讚・不可思議功德・一切諸佛・所護念經・舍利弗・南方世界・

『すべての仏が阿彌陀仏の功德は素晴らしいと称讚し、すべての仏に護られる経』を信じるがよい。』と。

しゃりほつ
舍利弗よ、南方にも、

うにちがっとうぶつ みようもんこうぶつ だいえんけんぶつ しゅみとうぶつ むりようしようじんぶつ
有日月燈佛・名聞光佛・大焰肩佛・須弥燈佛・無量精進佛・

にちがっとうぶつ みようもんこうぶつ だいえんけんぶつ しゅみとうぶつ むりようしようじんぶつ
日月燈佛・名聞光佛・大焰肩佛・須弥燈佛・無量精進佛などの

によぜとう 恒河沙数諸佛・各於其国・出廣長舌相・徧覆三千・

無数の仏ぶつがそれぞれの国で、まことの舌を持つて、あらゆる世界を覆い、

だいせんせかい せつじょうじつごん によとうしゆじよう とうしんぜしやうさん ふかしぎくどく
大千世界・説誠實言・汝等衆生・當信是稱讚・不可思議功德・

眞実であることを説かれる。へそなた達は、『すべての仏ぶつが阿弥陀仏あみだぶつの功德くどくは素晴らしいと稱讚し、

いっさいしよぶつ しよごねんぎよう しゃりほつ さいほうせかい うむりようじゆぶつ かりようせうぶつ
一切諸佛・所護念經・舍利弗・西方世界・有無量壽佛・無量相佛・

すべての仏ぶつに護まもられる經きやう』を信まじるがよい。』と。舍利弗しゃりほつよ、西方しやうほうにも、無量壽佛むりやうじゆぶつ・無量相佛むりやうせうぶつ・

むりようどうぶつ だいこうぶつ だいまようぶつ ほうせうぶつ じようこうぶつ によぜとう
無量幢佛・大光佛・大明佛・宝相佛・淨光佛・如是等・

むりようどうぶつ だいこうぶつ だいまようぶつ ほうせうぶつ じようこうぶつ
無量幢佛・大光佛・大明佛・宝相佛・淨光佛などの

ごうがしやしゆしよぶつ かくおごこく すいこうじようぜつせう へんぶさんぜん だいせんせかい
恒河沙数諸佛・各於其国・出廣長舌相・徧覆三千・大千世界・

無数の仏ぶつがそれぞれの国で、まことの舌を持つて、あらゆる世界を覆い、

せつじょうじつごん によとうしゆじよう とうしんぜしやうさん ふかしぎくどく いっさいしよぶつ
説誠實言・汝等衆生・當信是稱讚・不可思議功德・一切諸佛・

眞実であることを説かれる。へそなた達は、『すべての仏ぶつが阿弥陀仏あみだぶつの功德くどくは素晴らしいと稱讚し、すべて

の仏ぶつに

しよごねんぎよう しゃりほつ ほつぼうせかい うえんけんぶつ さいしよおんぶつ なんしよぶつ
所護念經・舍利弗・北方世界・有焰肩佛・最勝音佛・難沮佛・

護まもられる經きやう』を信まじるがよい。と。舍利弗しゃりほつよ、北方にも、焰肩佛えんけんぶつ・最勝音佛さいしよおんぶつ・難沮佛なんしよぶつ・

につしよぶつ もうみよぶつ によせとう ごうがしゃしゆしよぶつ かくおごこく

日生佛・網明佛・如是等・恒河沙数諸佛・各於其国・

にっしよぶつ もうみよぶつ
日生佛・網明佛などの無数の仏ぶつがそれぞれの国で、

すいこうじよぶつぜつせう へんぶさんぜん だいせんせかい せつじようじつごん によとうしゆじよ
出廣長舌相・徧覆三千・大千世界・説誠實言・汝等衆生・

まことの舌したを持つて、あらゆる世界を覆おほい、眞実であることを説まかれる。へそなた達は、

とうしんぜしよさん ふかしぎくとく いっさいしよぶつ しよごねんぎよう しゃりほつ げほうせかい
當信是稱讚・不可思議功德・一切諸佛・所護念經・舍利弗・下方世界・

『すべての仏ぶつが阿弥陀仏あみだぶつの功德くどくは素晴すばらしいと稱讚しょうさんし、すべての仏ぶつに護まもられる經きやう』を信まじるがよい。と。

しゃりほつ
舍利弗よ、下方にも

うししぶつ みようもんぶつ みようこうぶつ だつまぶつ ほうとうぶつ じほうぶつ によせとう
有師子佛・名聞佛・名光佛・達摩佛・法幢佛・持法佛・如是等・

ししぶつ みようちんぶつ みよこうぶつ だつまぶつ ほうとうぶつ じほうぶつ
師子佛・名聞佛・名光佛・達摩佛・法幢佛・持法佛などの

ごうがしゃしゆしよぶつ かくおごこく すいこうじよぶつせう へんぶさんぜん だいせんせかい
恒河沙数諸佛・各於其国・出廣長舌相・徧覆三千・大千世界・

無数の仏ぶつがそれぞれの国で、まことの舌したを持つて、あらゆる世界を覆おほい、

説せつ誠じやう實じつ言ごん・汝によとう等しゆ衆じやう生じやう・當とう信しん是ぜ稱しやう讚さん・不ふ可か思議しぎ功く徳とく・一い切っ諸さい佛しよぶつ・

眞実であることを説かれる。へそなた達は、『すべての仏が阿弥陀仏の功徳は素晴らしいと称讚し、すべての仏に

所しよ護ご念ねん經ぎやう・舍しや利り弗ほつ・上じやう方ほう世せ界かい・有う梵ほん音のん佛ぶつ・宿しゆく王おう佛ぶつ・香かう上じやう佛ぶつ・

護られる経』を信じるがよい。』と。舍利弗よ、上方にも梵音佛・宿王佛・香上佛・

香かう光こう佛ぶつ・大だい焰えん肩けん佛ぶつ・雜ざつ色しき宝ほう華け嚴ごん身しん佛ぶつ・娑しや羅ら樹じゆ王おう佛ぶつ・宝ほう華け徳とく佛ぶつ・

香光佛・大焰肩佛・雜色宝華嚴身佛・娑羅樹王佛・宝華徳佛・

見けん一い切っ義ぎ佛ぶつ・如に須よ弥ゆ山みせん佛ぶつ・如に是よ等とう・恒かう河が沙しや數じゆ諸しよ佛ぶつ・各かく於お其ご國こく・出すい廣かう長じやう舌ぜつ相そう・徧へん覆ぶ三さん千せん・

見一切義佛・如須弥山佛などの無数の仏がそれぞれの国で、まことの舌を持って、あらゆる世界を覆い、

大だい千せん世せ界かい・説せつ誠じやう實じつ言ごん・汝によとう等しゆ衆じやう生じやう・當とう信しん是ぜ稱しやう讚さん・不ふ可か思議しぎ功く徳とく・

眞実であることを説かれる。へそなた達は、『すべての仏が阿弥陀仏の功徳は素晴らしいと称讚し、

一い切っ諸さい佛しよぶつ・所しよ護ご念ねん經ぎやう

すべての仏に護られる経』を信じるがよい。』と。

キン一打

○南無阿弥陀仏 ●南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南

○十方恒沙の諸仏は

数えきれない仏様方は

●極難信ののりをとき

すべてに届く阿弥陀仏のすくいという信じがたい教えを説かれ

五濁悪世のためにとて

わかつちやいるけれどやめられぬわれらの為に

証誠護念せしめたり

阿弥陀仏のすくいを証明し、我らを護っておいでです。

○諸仏の護念証誠は

仏様方が証明し護ってくださいることは

●悲願成就のゆゑなれば

阿弥陀仏の願いのおかげです。

金剛心をえんひとは

阿弥陀仏からいただいたお心を得た人は

弥陀の大恩報ずべし

もつたいないことですと念仏をしましよ

キン一打

○舍利弗よ、何故この經の名を『すべての仏に
舍利弗よ、何故この經の名を』すべての仏に

所護念經・舍利弗・若有善男子・善女人・聞是諸佛所說名・

護られる經』というのだろうか。舍利弗よ、人々の中で仏がたが稱讚される阿彌陀仏の名と

及經名者・是諸善男子・善女人・皆爲一切諸佛・共所護念・

この經の名をよく聞かざれば、皆すべての仏がたに護られ、

皆得不退轉・於阿耨多羅・三藐三菩提・是故舍利弗・汝等皆當・

必ず仏にさせていたただける。だから舍利弗よ、そなたらは皆、

信受我語・及諸佛所說・舍利弗・若有人・已發願・今發願・當發願・

私が説くことと、仏がたが説かれることを深く信じるがよい。舍利弗よ、もし人々の中で、阿彌陀仏の

極樂淨土に生まれたいと、すでに願ひ、今願ひ、これから願う人は皆、

欲生阿彌陀佛國者・是諸人等・皆得不退轉・於阿耨多羅・三藐三菩提・

必ず仏にさせていたただける。

おひこくどにやくいししようにやくこんじようにやくとうししようぜこしやりほつしよぜんなんし
於彼国土・若己生・若今生・若當生・是故舍利弗・諸善男子・

その為に、極樂にすでに生まれ、今生まれ、これから生まれるだろう。だから舍利弗よ、

善女人・若有信者・應當發願・生彼国土・舍利弗・如我今者・

念仏をいたたく人々は極樂浄土に生まれたいと願うがよい。舍利弗よ、私が今、

稱讚諸佛・不可思議功德・彼諸佛等・亦稱說我・不可思議功德・而作是言・

仏がたの功德を稱讚しているように、仏がたもまた私の功德を稱讚し、こう言われる。

釋迦牟尼佛・能爲甚難・希有之事・能於娑婆国土・五濁惡世・劫濁見濁・

思想は乱れ、

煩惱濁・衆生濁・命濁・中・得阿耨多羅三藐三菩提・

煩惱は激しく、人々は敬いを忘れ、いのちを粗末にしている。その中で悟りを開き、

いしよしゆじよう せつぜいっさいせけん なんしんしほう しゃりほつ どうちがお ごじよくあくせ
爲諸衆生・説是一切世間・難信之法・舍利弗・當知我於・五濁惡世・

多くの人々の為に、信じがたいほど尊い教えをお説きになられた。と。舍利弗よ、よく知るがよい。私
は、この濁りに満ちた世において、

ぎようしなんじ とくあのかたら さんみやくさんぼだい いっさいせけん せつしなんしんしほう
行此難事・得阿耨多羅・三藐三菩提・爲一切世間・説此難信之法・

成し難い事を成し遂げ、悟りを得て、すべての世の人々の為に、この信じがたいほどの尊い教えを説いたの
だ。これこそ、まことに難しい事であった。と。

せいじんなん ぶつせつしきようい しゃりほつ ぎつしよびく いっさいせけん てんにんあしゆらとう
是爲甚難・佛説此經已・舍利弗・及諸比丘・一切世間・天人阿修羅等・

お釈迦様はこの經を説き終わると、舍利弗や他の弟子達、天人達、阿修羅などは、大いに喜び心に受け
止め、

もんぶつしよせつ かんぎしんじゆ さらいにこ ぶつせつあみだきよう
聞佛所説・歡喜信受・作禮而去・仏説阿弥陀經

禮拜してその場を去られました。

キン一打

○南無阿弥陀仏 ●南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

○五濁惡時惡世界
ごじよくあくくじあくせかい

わかつちやいるけどやめられず

●濁惡邪見の衆生には
じよくあくくじやくけん しゆじゆう

自然の成り行きをうけとめられない人々のために

弥陀の名号あたへてぞ
みだ みよこう

阿弥陀仏が南無阿弥陀仏を届けていると

恒沙の諸仏すすめたる
こうじゃ しよぶつ

あらゆる仏様方が勧めておられます。

○南無阿弥陀仏をとなふれば
なもあみだぶつ

南無阿弥陀仏をとなえれば

●十方無量の諸仏は
じっぽうむりよう しよぶつ

数えきれない仏様が

百重千重圍繞して
ひやくしゆうせんじゆういによう

幾重にも圍んで

よろこびまもりたまふなり

よろこばれお護りになられます。

○願以此功德 ●平等施一切 同発菩提心 往生安楽国
がんにしくどく びようどうせいといさい どうほつぼだいしん おうじょうあんらくこく

どうかこの阿弥陀如来の功德によつて 平等に届く阿弥陀如来の御名を聞き 共にこれをよろこび

安楽

(極樂)浄土に、往生させていただきましょう
ごくらく じようど おうじよう

キン三打 経本を頂く・合掌・礼拝

あみだきょう
阿弥陀経とは

じょうどさんぶきょう
浄土三部経の一つで「小経」とも言

います。

しゃか
お釈迦様が祇園精舎で舍利弗に説

じくらくじょうど
かれています。極楽浄土の様子、

あみだぶつ
阿弥陀仏の名の由来、念仏のいわれ

あみだぶつ
を聞き称えること、六方の仏がたが

あみだぶつ
阿弥陀仏を称讃されていることが説

かれています。